

妻ヶ丘中学校だより

令和6年12月24日 校長 深江 祐史

二学期が終了しました

県内ではインフルエンザが流行し、学級閉鎖等の措置をした学校もある中、本校は何とか無事に令和6年度の第二学期を終えることができました。これは、生徒の皆さんが寒い中にも関わらず、こまめに手を洗ったり、しっかり教室の換気に気をつけたりしてくれたおかげだと思っています。あとは寒い中でも体育の授業や部活動に真剣に取り組んでくれたからでしょうか。持久走も頑張っていましたね……しっかり予防する、そして体力をつける。どちらも大切なことだと思います。

それでも残念ながら、終業の日を欠席せざるを得なかった人もいます。特に3年生の皆さんにとっては、勝負の冬休みです。自分でできる対策はしっかり行って過ごしてほしいと思います。

終業式が行われました

本日(24日)の終業式では、4名の生徒に「二学期の反省と今後の抱負」を述べてもらいました。

1年代表の 木下 楓 さんは、今学期成長を感じたこととして①テスト勉強の質が上がった②様々な行事を通してクラスの絆が深まった③学級委員長を経験して自信や度胸がついたの3つを挙げました。また、3学期はさらに「きずなのわ」を深めて後輩を迎えたいと抱負を述べました。

2年代表の 隈元 心椰 さんは、文化祭や修学旅行は楽しかったが、辛い、大変なこともあった。でも確実に友だちとの距離が縮まったことを挙げました。またこれから更にメリハリを意識し、思いやりのある学年になりたい、いよいよ最終学年に向かって0学期の意識で望みたいとの言葉がありました。

3年代表の 丸田 鉄平 さんは、①勉強が嫌いだったが、友だちに刺激を受けて頑張れた②物事に取り組むまでに時間がかかったので優先順位を意識したい③文化祭での指揮者はとても良い経験になったことを挙げました。そして、中学生最後の学期を迎えるにあたり、受験勉強と同じくらい大人になっても忘れないような最後の思い出をつくりたいとの正直な言葉がありました。

生徒会代表の 鶴田 蓮 さんは、生徒会として①スローガンにふさわしい文化祭になったこと②ふれあい祭りでは、たくさんの協力があり、地域とのふれあいをふかめることができたことへのお礼の言葉がありました。また、今後は、生徒会で学力向上へ向けた取組を行っていきたい。そのためには、まず各個人が机に向かう習慣をつけること、そのような雰囲気づくりに努めたいとの言葉がありました。さすが、選挙で選ばれた執行部だけありますね。期待しています。頑張ってください。

今回、インフルエンザの感染拡大が懸念されたため急遽リモートとなりましたが、4名は、緊張しながらもカメラの前で、しっかり自分の言葉で述べていました。4名とも素晴らしかったと思います。

その後、私からは、全校生徒に対して以下の話をさせていただきました。

妻ヶ丘中には、ある時期になると見られる風景があります。

職員玄関前には、3年生が美術の時間につくった印鑑がずらりと並べてあります。外から来るお客さんは、みなさん職員玄関から入ってこられますが、多くの方々が、あの長机の前で足を止めて、

皆さんの作品を見られます。また、美術室に昇る階段の壁には2年生のコースター、1年生のスケッチの作品が展示されています。

皆さんご存じの通り、私は皆さんが授業中、校内をウロウロしていますが、この時期は、やはりあそこで足が止まります…なぜ、この生徒はこんな表現をしたのか…とても興味深いです。

あの作品を見てもわかります。全く同じ作品は一つありません。みなさんは、同じ制服を着て、同じような格好をしています。一人一人は違う人間だということです。

自分と同じ人間なんて、この世の中に一人として存在しません。人間は約 37 兆の膨大の数の細胞が一体となってできています。一人の人間の全ての細胞に同じ DNA が入っているのですが、それは人によって全部違ってしています。一人一人が違う人間であることは、生物学上でも証明されていることです。

その違う人間が、目標を共有し、その目標に向かってこの二学期、合唱をつくりあげたわけです。私は、とてもすごいことだと思っています。歌が得意な人、苦手な人、好きな人、嫌いな人…合唱に対し、様々な想いをもっていた人もいたと思いますが、一つの目標に向かって、一生懸命やった結果、あのような感動を得ることができたわけです。

さて、話は変わりますが、「人間は〇〇を創らないと生きていけない生き物です」…この〇〇には何が入るでしょうか…？

正解は「社会」です。人間は「社会」をつくらないと生きていけない生き物です。他の生物と違って、「社会」を創ることここまですべて人間は繁栄してきました。

ただ、一人一人が違うことを、同じ人は一人もないことを知ったうえで社会をつくらなくてはなりません。そのために必要なことは何でしょうか…？

それは「知性」だと言われています。社会を維持するために人間は「知性」をつかいます。生物学的にいうと私たちは「ホモサピエンス」といいますが、サピエンスとは「知性」を意味しています。「知性」をきちんと育てないと、「本能」だけで生きていくと、人間は恐ろしい生き物になってしまうので、いろんなことを学ばなくてはならないというわけです。

そのために学校が、勉強があると私は思っています。今のうちに、若いうちに、いろんな知識を身につけて、考える癖を身につけて、社会を行く抜くための自分の根っこにしてほしいと思います。

先日、私はひよんなことから、ある学級で自習監督をすることになりました。3年生の学級です。時間にして20分ほどだったのですが、その20分の間、この学級の生徒は、だれも一言も話さずに、全員が集中して課題に取り組んでいました。小さな物音でさえ立てるのが、失礼になると思うくらいの空気感でした。

とても「まとまり」を感じました…でも、この「まとまり」は、皆さんのリレーや合唱を見た時に感じたものとは違いました。クラスの人が優勝とか1位とか、同じ目標に向かっていているわけではありません。一人一人が、それぞれの進路目標に向かって、それぞれの夢の実現を目指して頑張っている…それを認める雰囲気があるように思いました。受験生らしい、大人っぽい、「知性」を感じるものでした。

皆さんは、確実に成長しています。それをたくさんの場面で感じることもできた二学期でした。

長い冬休みに入りますが、体調面には十分留意して、充実した冬休みを過ごしてください。

以上で私の話を終わります。

本年も大変お世話になりました。しばらくの間、子どもたちを家庭・地域にお返しますが、どうぞよろしく願いいたします。よいお年をお迎えください。